

2004年初冬号

# News

特定非営利活動法人  
都市生活コミュニティセンター  
〒663-8231 西宮市津門西口町 7-3  
TEL0798-36-6679 FAX0798-36-5114

## 出石町日野辺へ ボランティア作業

台風23号は但馬地方に甚大な被害をもたらしました。TCCメンバーは（池田・松尾・前川）10月26日（火）に豊岡市・出石町へボランティア派遣をするために下見に行きました。豊岡はマスコミが大きく報道したので、ボランティアセンターが設けられ、多くのボランティアが作業をしていました。

しかし、出石町はその様子が一変していました。鳥居地区では3日間も水が引かず、見るのも悲惨な状態でした。今にでも車から飛び降りて支援したい衝動に駆られました。思いとどまり、私たちは役場に行き、28日にボランティアに入ることを約束しました。役場の女性が「ありがとうございます。お願いします。」という、切なる叫びにも似た声が今でも忘れられません。瞬時に災害支援という社会的意義に賛同してくれたボランティア23名で10月28日（木）早朝7時に豊岡市へ出発しました。出石町での打ち合わせでは鳥居地区の予定でしたが、着いてみると日野辺地区への変更が伝えられました。場所が問題ではなく、被害に遭った人々の再建に役立つ事でしたから、10時半には日野辺でそれぞれの家に分かれて活動を始める事ができました。

日野辺では家の中で水につかったものは、運び出されていましたが、まだまだ人手は必要でした。家の中を見ると壁に浸水を示す線がついていて、水害の怖さをまざまざと見せつけられました。

ボランティアの活動の様子・感想をお読みください。（前川智佳子）



「病気で入院して元気になった。この水害も乗り切る。」と話す山本みちえさん

池田さんによると、我々の仕事が一番きつい作業のようだとの事でしたが、他の方たちの様子はまったくわかりません。皆がそれぞれ、同じように思っているとしたら、おかしいけれど、それがいいのです。

私も久しぶりに、全身の力を使って働いた気分です。爽快でした。今のところ筋肉痛もまだなので、そんなセリフが出てくるのかもね。明日の朝がこわいです。ところで、作業中、虫やカエル、かたつむり、ざくろや玉ねぎといっしょに牛ふんもたっぷりあり、はじめは、”これは！”と思ったけど……。本当にめったにない経験をさせて貰い、ある意味、感謝の一日でした。ボランティアのお世話を下さったTCCのスタッフの方々、ありがとうございました。（山崎たか）



# 日帰りボランティア in 出石町日野辺

## 10月28日(木) 参加者23名



百聞は一見に如かず  
37頭の牛の内21頭が水害で死に、1頭が行方不明。大谷牧場の御主人の「貧乏しました」と笑われた苦しそうな笑顔が忘れられません。大変な現実を目のあたりにしてボランティアとしてできることをたとえ1日でも手の足りないところで(必要とされたいところ)動いていくことが大事なことで、そしてボランティアの働きをコーディネートすることの大切さも実感しました。ボランティアは指示を受けできることをする。その働きに割り切れればよいのかも知れませんが、自然の恵みを受けることについて当たり前のようになってしまう人間への警告やら、早く日常の生活の営みもどりますようにとの思いやら、今は頭も心もいろんなことがうずまいています。災害復興ボランティア(?)に初めて参加できましたこと、いろんな意味で感謝しています。足手まといになりそうな私もみなさんと力を合わせれば前進できることも実感できました。ありがとうございました。(松本綾子)

農村での水害について●「牛糞まみれの汚濁」は、都会では想像がつかなかった。牛20頭・鶏1万羽水没・田んぼがえぐり取られた。などの話から、生活・仕事そのものを失う怖さを実感しました。

山ぐずれ●お伺いしたお宅は、家の前から川の水が押し寄せ、裏からは山崩れくわすかの差で家は大丈夫でした。>の被害。雑木林で大きな崩れがないように見えたが、ごく一部に杉の植林がされた所があり、そこだけが、もの見事に水鉄砲が出て、杉の木々がごろごろと流されていました。

植林された杉・ヒノキの山が特に危険なのは。●40年前に全国的に植林され、大きく育った杉。が、手入れがされず、日光が地面まで届かず、土は砂漠のようになっているようです。テレビで注意深く見ると、各地での土砂崩れは「杉・ヒノキ」の山に集中している様に思えてなりません。<どなたか詳しいデータがあれば教えてください>すべてが「植林の杉」だけではないと思いますが、平素から山の防災体制=家や道路近くの杉林を中心に手入れをするシステムを早急につくる必要があると思いました。(阪野修)

出石の観光の中心から少しの所でこんなに被害があるという事実。豊岡では、5分おきに川の状態を市が市民に知らせていたのに、私が行かせてもらった日野辺地区では全く情報がこなかったと言うこと。これは、100%天災とは言えない。腰位まで水がきてやっと行政が来たと言う。「高いところに避難して」と。「今年のお正月楽やわ。なんもせんでええから」そうやって笑顔で私達に接してくださいました岸本さん。たくさんボランティア、友達。親戚のおかげで毎日何とか明るく片づけをしますと言われる。私は何もしていなかった。何もできなかった。なのに「休んでよー」「ほんま助かるわー」「お菓子たべー。お茶のみー。コーヒーに砂糖は？」と前からの知り合いみたいに(?)親切に言って下さる。どうぞお疲れがでません様に。(吉岡裕子)

思いきってボランティアに参加してよかったです。自分に何が出来るか、とても不安でした。猫の手も必要とされている時に、ぶたの手の私でもお役に立ったみたい。先方ではお茶やお菓子など気を使っていたが、申し訳なかったのですが、お茶をしながらいろいろおしゃべりができ、笑いもおきました。すこしだけでも気分転換になったかな? 「今日は助かったわー。明日は、また違う人が来てくれるんか?」と聞かれた時は、困りました。(高田真由美)

今回のこの活動に参加させていただいてありがとうございました。とてもよい経験になりました。ボランティア活動など初めてで、みなさんの足手まといにならないかどうかすごく不安でしたが、私なりに、「足手まといにはなつてなかったかも」って思っただけです。私の仕事は、家にたまったドシャを取り除くことだったので、一輪車を使うのも初めてで、ドキドキワクワクでしたが、肉体労働は結構自信があったので、楽しかったです。いつもは、バドミントンの練習で自分のために



高橋茜 絵

汗をかいていますが、今日は人のために汗をかくてすごくうれしかったです。同行のみなさんもすごく優しくしていただいて、楽し、うれしかったです。ありがとうございました。PS. 右も左も手が筋肉痛になりました。(笑) (高橋茜)

前日までのうっとうしい天気とは違い、秋らしいさわやかな日となりました。とはいえ、家を出たころは外は真っ暗で、肌寒かったです。TCC理事長の「遅刻するな」のお言葉と、熱心なボランティア精神のある方ばかりなので、きっちり朝7時に出発することができ、幸先の良いスタートとなりました。バスも予定より早く着くことができ、また、スタッフの決め細やかな配慮で!!10時すぎには活動ができて、本当に良かったです。76歳の女性と87歳(?)男性の老夫婦のおたくでの活動でした。3人で入り、ガレージの泥かき、と片付け・・・そして、汚れた小物(写真や・家計簿!!・賞状その他)(外で乾かしていました)を、ガレージ内に移動させました。窓ガラスをとりはずして洗い、サッシの掃除・・・これがかなりやっかかったです。ご主人は介護度1(痴呆あり)この台風の時も、少々わからないので、たいへんでした。今はショートに入っています。お孫さんたち(女性3人~大阪・京都)が手伝いに来てくれていました。奥様は、3日前ころんで左手骨折。明日手術されるとか。こんなときにと、嘆かれました。お話をじっくり聞くことができ、よかったです。(涌田美知子)

もっと時間があれば・・・。もっと人がいれば・・・。いろいろやることあるのにできなく申し訳ないです。いつもボランティアにきてもらう側なので反対の立場を経験できてよかったです。又、参加させてください。(松尾利恵)

被災者宅にはボランティア6人、親戚の方数人が見えていたが、普段の様に効率よく働かず、細かい泥は洗っても乾くとまだこびりついているのがわかり、又洗い直す。雑巾は5回すすいでも、まだ水が濁るという気の遠くなるような作業を繰り返していた。注意事項の1時間に1回の休憩もあつという間に忘れ、もっと時間の欲しい1日でした。家の方はもう1週間もこの作業を続けておられ疲労が出ていて、お別れの挨拶をしても行政への不満が、わあーと出て私達もなかなか帰れない状態でした。(岩崎真美子)

出石の民家の壁際に消火栓があり、土砂で埋まり、側溝にも土砂が押し寄せ詰まっている所の土砂を取り除く作業を3人で行いました。始め見た時は簡単な仕事とと思っていましたが、スコップで猫車にのせ捨て場に運ぶ。詰まった土砂は固くてスコップがスッと入らなくて又、一輪車のバランスのとりに始めはどうなる事かと思いました。いきなり家に水が押し込んでたたみが浮き上がった恐怖を味わった人達なのに私達の作業に気を使ってくれてお茶やお菓子まで出してくれて申し訳なく思いました。元通りになるには、これから時間がかかると思いますが、私達の行った所には、笑顔が絶えなかったのががんばってほしいと思います。翌日外を歩くとお腹が軽く、いつもより違う足どりにびっくりしました。(村上広子)



浸水の恐ろしさを目の当りにしました。サッシの溝の泥は落ちにくくて時間がかかりました。ガラス戸は外側よりも内側が泥まみれで、なかなか手ごわかったです。4時いっぱいまでに、みんなきれいにしなくてはと思い頑張りました。一緒に組んだ人が、69歳とは思えない若さで頑張られましたので、作業がはかどりました。あしすとの利用者には程遠い方です。被災者の人達の話によると、水害から3日間は無駄な作業ばかりしていたそうです。何から手をつけていいのか判断できなかったそうです。皆さん相当疲れていらしゃる上、ボランティアへの気使いをされ尚疲れが増したのではと心配です。思い込みの自己満足のボランティアではなかったのか反省中です。(佐々木京子)

震災より水害の方が後が大変だろうなと想像はしていたけれど、じっさいに目の当たりにして想像以上に大変だと実感しました。これから先いつになったら普通に生活、前のような生活に戻れるのか見通しが見えない不安が被災された方からひしひしと伝わって来ました。たった1日だけのお手伝いしかできなかったけれどほんの少しだけ手助けになり、また胸の内を少しだけ聞かせていただきほんのひとときでも気持ちが楽になったことを期待しつつ心の中でいつも想いをはせたいと思います。(岡部真紀子)



映像で見て想像するのと、実際に体験するのは大違いでした！今まで、水に濡れた土だと思っていたのですが、たくさん運び出した泥は巨大な茶碗でも作れそうな粘土でした！ヌルヌルして滑りやすく、埋まった足は抜けにくく、歩くだけでも一苦勞です。

雨が止み泥が乾きかけても、あちこち洗う排水でまたぬかるむ為、いつまでもこんな状態との事でした。大勢で作業出来たので、大半の泥が撤去できて本当に良かったです。お家の方々は、毎日毎日の作業で疲れていらっしゃると思いますが、こまめに休憩を取られ、その度に私達もご一緒させて頂き、色々ごちそうになりました。休憩の時には、水害時の様子や、私達の住んでいる神戸や西宮の話、都市生活コミュニティーセンターの活動についての話などができて楽しい一時も過ごせました。災害ボランティアに興味はあったものの、自分1人では行動に移す勇気が無かったので今回は参加できて本当に良かったです。お手伝いできた時間が僅かだった事は残念ですが、居ないよりはマシだったのではないかと自己満足感があります。“とても楽しかった”という感想は不謹慎かもしれませんが・・・また協力できる事があれば参加させて頂きたいと思います。(中芝くるみ)

水害の被災を具体的に見ることができたのが第1の収穫。当日の様子、ボランティア要請するのが大変など、家人から直接話を聞いたのもよかった。(平戸潤也)

この度の新聞テレビで災害を知り10年前を思い出しました。その為少しでもお手伝いが出来ればと思い参加しました。報道テレビで見ると以上に現場に行ってみるとびっくりしました。畳、家具等が泥をかぶり悲惨な状態でした。私達は二人で小川さんのお家のガラス磨きをしました。大きなお家で回り廊下に1枚ガラスの大きなガラスが16枚位あり、ガラスの半分下は泥ばね(並の泥ばねでない)又、レールの下は泥がたまり大変でしたが、きれいになった時はうれしくなりました。家族の方も良い人で私達に気を使われかえって恐縮しました。帰るときもおばあちゃん(しつれいかな)若奥様、子供さんが何回もお礼を言われ今日来て良かったと自分で思いました。又参加したいと思います。

(高田温子)



### ～インフォメーション～

- スキルアップ講座 マネージメント研修 12月4日(土) 10:00~16:00  
講師：黒田裕子氏(日本ホスピス・在宅ケア研究会副理事長)  
会場：神戸市勤労会館

## 2004年度☆介護保険事業報告

★あ・し・す・と(垂水)

★あしすと武庫之荘(尼崎)

●現在、2つの事業所を拠点に都市生活組合員が中心となってヘルパー派遣事業を行っています。

●武庫之荘では居宅介護支援事業(ケアプラン)も行っています。

